



真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

Email : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

三條別院に想う

くふりかえるとき

三條別院には色々な行事がありその中で青少年関係の会議などで主に足を運ばせて頂いています。最初は新発田から少し遠いなど思いつつも足を運んでいたわけですが（もつと遠い方もおられる中申し訳ないです）通っているうちに慣れてきてそう苦でもなくなってきました。しかしそうなるとう度は今みたいなぼやぼやとした陽気になると、高速を走っているにも関わらず眠くなることもしばしば・・・事故のないように身も心も安全運転で行きたいと思えます。

と話は戻りますが、慣れというのは、いいこともありますが、そこから心の余裕、または油断が生まれてきます。最初に別院に来たときは自然と手の合わさる気持ちでしたのですが、通っているうちに慣れてきたせいもありその気持ちをごどこか心の片隅に置いてしまっていた気がします。しかしそれは単に慣れてしまっているからだけでなく、煩惱にまみれた身であるがゆえに、自分自身で見えなくなってきたのだなと思います。またこのように考えてしまうのも日々生きていく中で真宗というところの、自分自身の宗というものが心の片隅に置き去り

にされているために見えなくなっているのではないかと、そしてこのように思うのも今まで生きていた中でいいこと嫌なことすべてを仏縁としていただいていたことがなかったともいえます。

また別院では報恩講をはじめ、研修会であったり声明講習会であったり青少年教化など他にも様々な事業が行われています。色々なことにかかわらせていただき仏法に触れていく中で、自分自身の問いを顧みることのできる仏縁をいただけるのが別院であり、御坊様であるのだと思っています。

（第二十二組 淨念寺 廣瀬 清和 氏）

○次回の「三條別院に想う」は、

大野成一氏（第二十組真光寺）より

ご執筆いただきます

■別院公開講座のご案内

「地域に開かれた別院」を願いとし、本年も左記の通り、公開講座を開催いたします。

森田正馬（一八七四〜一九三八）の



開発した、日本生まれの心理療法である森田療法は、仏教をはじめとした東洋思想に影響を受けていて、西洋的な価値観のゆらぐ現代で、その哲学が再注目されています。そこで、昨年に引き続き、北西憲二氏（森田療法研究所所長・北西クリニック院長）に、心理療法の最前線と仏教の関連についてお聞きします。

◇日時 五月二十五日（日）

午後二時三十分〜午後四時三十分

◇場所 三條別院内 同朋会館

◇講師 北西憲二氏

◇講題 「心の問題と仏教思想・親鸞思想
——死と生をめぐって——」

森田療法研究所所長・北西クリニック院長

◇参加費 無料

■子ども奉仕団 in 木揚場教会報告

本年は関東地方の記録的な豪雪とは反対に新潟県の冬は雪が少なかったために、御遠忌記念事業である本堂修復工事は順調に進んでいるようです。工事に伴い、例年本堂・旧御堂・同朋会館で行っていた子ども奉仕団を、新潟市の木揚場（きあげば）教会で開催いたしました。本年は四十四名の参加者が本堂で勤行・清掃奉仕・夜のお寺探検・本町ミステリーツアー



【甘茶で仏さまの誕生を祝う】

等の日程を楽しみながら過ごしました。福島県からも、十九名の子ども達が参加してくれ、ました。「仏さまのもとで手をつなごう！」というテーマで開催された今回の奉仕団。スタッフも慣れない木揚教会で不安な中、子ども達と徐々に友達になり、大人・子どもとの境を越えて共に仏教に触れていく奉仕研修となりました。

■御命日（二十八日）の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。本堂修復に伴い、一年間仮本堂（同朋会館二階）でのお勤めとなります。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。なお、前日（二十七日）はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【五月二十八日（水）】

- 午前十時 お勤め（御命日 日中法要）
- 文類偈 行四句目下
- 念仏讚 洵五
- 和讃 回口 次第六首
- 回向 願以此功德

◎今月の法話講師

小林 智光氏（第十二組 淨照寺）

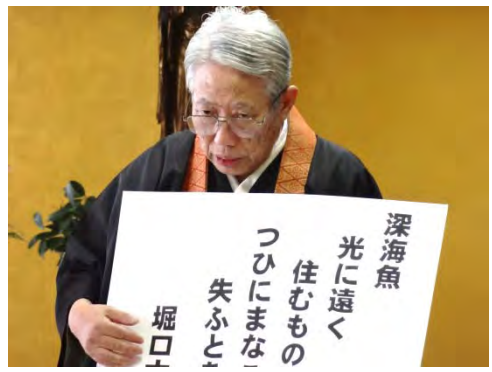


◇今後の講師一覧

六月 土屋 真氏（第十五組 淨照寺）

■定例法話会のご案内

毎月十三日は、「兩度の命日」と呼ばれている前門首のご命日です。また、蓮如上人も御文中で、この「兩度の命日」についてお書きになられています。（四帖目十二通）



【藤波氏は観桜会にも参加してくださいました】

- 旧御堂にて開催していましたが、改修工事に伴い、一年間仮本堂（同朋会館二階）での開催となります。皆様、お気軽にお越しください。
- ◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く 午後一時三十分より（二時間程度）
- ◇場所 三条別院 仮本堂
- ◇講師 五月〜七月 井上 正 氏（第十組 受徳寺）

■別院声明教室のご案内

別院を会場に正信偈の稽古を行っております。毎日のお勤めを学びたい方、これから得度を受けられる方、研鑽を積みたい方、是非一緒に学びましょう。

しょう。

- ◇開催日 五月二十一日（水）六月十八日（水）
- ◇時間 午後六時より午後八時まで
- ◇会場 教区同朋会館（三条別院内）
- ◇講習内容 正信偈 草四句目下 念仏讚 洵三
- ◇講師 中富正純氏（第二十三組 福照寺）
- ◇持ち物 『真宗大谷派勸行集』または 『大谷聲明集 上』、念珠、筆記具
- ◇参加費 五〇〇円／回
- ◇参加希望の方は当別院までご連絡ください。

いつでも参加してね！



■別院書道教室のご案内

- 書道教室受講生を追加募集いたしますので、ご希望の方は是非ご連絡ください。
- ◇開催日 毎月一回（第一、第四水曜日）
- ◇時間 午後六時三十分〜八時
- ◇講師 木原 光威氏（新潟県書道協会理事）
- ◇持ち物 筆（大・小）、硯、下敷、文鎮、墨液、半紙、新聞紙
- ◇月謝 二五〇〇円（テキスト代含む）

■同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、宿泊当日に同朋会館一階の事務所にございます宿泊者帳に記載してください。その後、シートクリーニング代五〇〇円とシーツを交換させていただきます。

なお、宿泊される方は、翌朝七時より仮本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

■ 三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどしか行われていません。ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただく縁となりますことを、願っております。

※巡回の曜日・時間等はできるかぎりご都合に合わせてまいりますので、お気軽にご相談させていただきます。

※現在、宗祖真向御影巡回を行っております。
ご希望の場合は**組長経由**でご相談ください。

■ 別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によつて護持されてきた三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇う、そのような奉仕研修会を開いてみませんか。

ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となればと考えております。
○日程及び内容について、ご要望等ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会を参加いただく方(団体)の、真加金は左記のとおりです。

◎ 冥加金

- ・日帰り 一、五〇〇円
 - ・一泊二日 二、五〇〇円
- ◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)
- ・朝食代 五〇〇円
 - ・昼食代 一、〇〇〇円程度
 - ・夕食代 一、三〇〇円程度

■ 三条別院有志の会について

三条別院では「三条別院有志の会」という集いを持ち、法話や座談会(茶話会)など、近隣の方をはじめ、有縁の方にお集りいただいております。

三月には長年の懸案事項であった会長(山田恵美子氏)もようやく決まり、恒例の観桜会、御遠忌法要の駒札立柱に向けた草取り等、暖かくなるにつれて活動もますます盛んになってまいりました。

現在十余名の有志の皆様によつて活動しておりますが、「三条別院有志の会」では、より多くの方にご参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でもご来院くだ



【酒飯茶と仏法と】

さいますよう、ご案内申し上げます。お問い合わせせは三条別院まで。

◇◇ 編集後記 ◇◇

現代に生きる僧侶は多かれ少なかれ、切実に考えている問いがあるだろう。いったい、お寺に何が求められているのか? 別院に勤めて解つたことが一つある。お寺には、きもだめしが求められている、ということである。



新潟市の金寶寺で、毎年七月二十四日に開催される子ども報恩講には、宣伝しなくとも子ども達が百人以上集まるという『仏青通信』最新号参照。何故子どもが集まるのか? もちろん、「きもだめし」があるからである。私も三年ほど前に児連の子ども会巡回で伺った時に、お化けとして参加させて頂いた。お墓の陰から驚かした時の、子ども達の泣き叫ぶ声が、今でも忘れられない…。また、おどかしたい! と強く想った。爾来、別院子ども奉仕団では、毎年夜のお寺探検を企画している。ある年は子どもを怖がらせすぎたので、スタッフで真面目に反省をした。ある年はふざけすぎて、子ども達が怖がつてくれなかった…。今年も木揚場教会という外会場でも、何とかきもだめしができた。

お化けはいない。これは科学的信念である。しかし、お化けを怖がるという現象は人間の心の奥に確かにあり、子ども達の心をくすぐり続けている。きもだめしを仏法弘通にどう生かすことができるのか、我々は新たに問われているのではなからうか。

(斎木)